

==== 会員の広場 ====

根本順吉氏の「天気」偶感”に答える

嶋 村 克

私は前月号の「会員の広場」で根本氏が言及されている編集後記を MS の名で書いた「天気」編集委員です。「会員の広場」を意義あらしめるため、根本氏のご意見に対し一言述べさせていただきます。

まず、あの内容の記事を編集後記で述べた理由ですが、私は（委員として不活発な活動しかしていませんが）、「天気」編集委員であり、その特権でなくむしろ義務感から編集後記の場で考えを述べたのであり、一種の自戒の念から発して書いたことをご理解願いたいと思います。「天気」が気象関係者に対して、行くべき方向を示す役割をも持っていると考えているわけであり、編集委員でなく一会員としての意見を述べるのであるならば当然「会員の広場」で行うことになるでしょう。

次に専門家の意見や知見に矛盾や混乱があること自体を非難しているわけではないし、専門家間での議論—いわゆる debate—を好ましくないと言っているわけでも決してありません。学会としての意見を統一すべきであるというのとも違います。おっしゃる通り学会は自由な研究の場です。ただ、ここまでははっきり分かっている、ここからは意見が分かれるとする、すなわち「知ら

ざるを知らずとなす、これ知れるなり」の立場にはっきり立てるようにしたい（会員にこの立場に立ってもらえるように「天気」がお役に立ちたい）と言うことが言いたい点なのです。それ以上でもそれ以下でもありません。また「天気」がこのために、全然貢献していないなどいってはおりません。益々努力しなければとの自戒の発言ととっていただきたいわけです。

「公の機関」の公表したことが、いつでも単に「孫引きの」であるとは考えません。いやしくも責任ある公的機関の発言は可能な限り「責任ある」発言であり、これを信じないのはどんなものでしょうか。以上のような考えになるのは、筆者がその公的機関の一部に属しているからかも知れません。この点は意見が分かれるところかも知れません。

以上を要するに、私の筆は、「天気」編集委員としての自戒の念のなせるところであるということです。この編集後記を匿名としたのは、習慣に従ったからに過ぎず、名前を明記しても内容は同じです。このことに関し言えば、編集後記は匿名にせず名前を載せるべきであると考えます。

「気候温暖化に伴う海面水位上昇について」（天気 Vol. 38 No. 2） についての根本順吉氏に対する回答

周 東 健 三

(1) 「海水の熱膨張の寄与」の項で Hansen *et al.* (1982) の一次モデルについて述べた理由。

本文、第3図で、過去100年間の海面水位上昇のうち、海水の熱膨張の寄与を評価する際に、Gornitz *et al.* (1982) が Hansen *et al.* 1981 のモデルを使用しているために、そのモデルについて説明した。本文を読んで行けばこのつながりがわかる。

しかし、はじめに Gornitz 等 (1982) との関係を述

べておいた方が、わかりやすかったと思っている。

(2) Hoffert *et al.* (1980) を引用した理由。

IPCC 第1作業部会報告書、第6章「温室効果気体漸増時の気体変化」第6節「将来の全球気候変動の予測」では Hoffert *et al.* (1980) のモデルを使用して予測している。また、第9章「海面水位の上昇」9.4.1「海洋の熱膨張」においても、熱膨張による全球的な海面水位上昇の予測は、第6章第6節における予測の海洋部分と